

## 薬事情報センターに寄せられた県民・医療従事者からの相談事例

(2015年4月)

### 【相互作用防止】

Q：バルサルタンとアムロジピンを服用中。歯が痛いので、家族に処方されたロキソニン<sup>TM</sup>を飲んで良いか？（県民）

A：降圧薬とロキソニン<sup>TM</sup>で、降圧作用の減弱や腎機能悪化のおそれがあり、併用注意。また、他人に処方された薬を服用しない。

Q：パキシル<sup>TM</sup>CR、ミカムロ<sup>TM</sup>配合錠BP、トリクロルメチアジド、フリバス<sup>TM</sup>を服用中の患者。セフゾン<sup>TM</sup>、ロキソニン<sup>TM</sup>との相互作用は？（歯科医師）

A：パキシル<sup>TM</sup>CRとロキソニン<sup>TM</sup>で出血傾向が増大するおそれがあり、併用注意。降圧薬とロキソニン<sup>TM</sup>で降圧作用の減弱や腎機能の悪化のおそれがあり、併用注意。

Q：ガスマチン<sup>TM</sup>、ニフェランタン<sup>TM</sup>、センノシド、ジスチグミン、ドネペジル、ツムラ抑肝散を服用中の患者。フロモックス<sup>TM</sup>、ロキソニン<sup>TM</sup>との相互作用は？（歯科医師）

A：ドネペジルとロキソニン<sup>TM</sup>で、コリン系の賦活化により胃酸分泌が促進され、消化性潰瘍を起こすおそれがあり、併用注意。

Q：バイアスピリン<sup>TM</sup>、プラビックス<sup>TM</sup>、リバロ<sup>TM</sup>、パリエット<sup>TM</sup>、アルダクトン<sup>TM</sup>A、アーチスト<sup>TM</sup>服用中の患者。抜歯は問題ないか？フロモックス<sup>TM</sup>、ロキソニン<sup>TM</sup>またはカロナール<sup>TM</sup>との相互作用は？（歯科医師）

A：バイアスピリン<sup>TM</sup>、プラビックス<sup>TM</sup>は中止せずに抜歯可能で、歯科的止血処置を十分に行う。パリエット<sup>TM</sup>を消化性潰瘍で服用であればロキソニン<sup>TM</sup>は禁忌。アルダクトン<sup>TM</sup>Aとロキソニン<sup>TM</sup>で、降圧作用の減弱、腎機能悪化、カリウム値上昇のおそれがあり、併用注意。カロナール<sup>TM</sup>は影響が少ない。

Q：ワルファリン服用患者。健康食品でグルコサミン服用してよいか？（薬局）

A：検査値（PT-INR値）が上昇し、出血傾向の可能性がある。

### 【適正使用】

Q：ノルspan<sup>TM</sup>テープの貼り換えの前に、一部の剥がれに気付いた。どうしたら良いか？（県民）

A：ノルspan<sup>TM</sup>テープは7日毎に貼り替えて使用する。7日たたないうちに一部が剥がれた場合は、再度手で押しつけるか、又は皮膚用テープ等で剥離部を固定する。粘着力が弱くなった場合は、直ちに同量の新たなテープを現在の貼付部位とは異なる部位に貼り替えて、7日間貼付する。

Q：不眠時にマイスリー<sup>TM</sup>（5）を2錠服用中。夜中に目覚めた時、2錠追加してよいか？（県民）

A：上限は1日10mgなので、追加の2錠は飲み過ぎとなり、副作用発現の可能性はある。勝手に増量せず、状況を医師に相談する。

**【妊婦・授乳婦】**

**Q：妊娠4ヶ月の患者。抗生物質、制吐薬は何が使用できるか？ブスコパン™の投与は問題ないか？  
(医師)**

**A：抗生物質の第一選択薬はセフェム系・ペニシリン系薬。制吐薬の第一選択薬はプリンペラン™。  
ブスコパン™の使用による催奇形性リスクの上昇は考えられない。**